熊本大学学術リポジトリ

和歌五首 ： 文苑

著者	溪川生，松露生，天山生
雑誌名	龍南會雑誌
巻	４９
ページ	３９-３９
発行年	1896-10-24
URL	http://hdl.handle.net/2298/4567

近詠五首　　溪川生

秋風の吹上けの濱の朝月夜なくこゑきよし天のたつむら

ちり殘るならの枯葉に三日月のほのかにかゝる秋の暮哉

吾庵のかきはの谷の岩清水くもいくゑへて世に出てぬらん

かたりつゝ眺めあかしゝ月影を今夜はきみか魂祭りして

國の爲めこゝろつくしの筑紫櫛たゝ一筋にさしてこそ行け

旅中にてよめる　　松露生

かち枕樂しきともありそみの波のまに〳〵うくもある哉

隱岐にてよめる

海原のわきを遙に尋ねきて昔ゑのふの卿のつくけさ

後鳥羽院の御陵に詣てゝ

ゑこはらを刈田の里の御陵にうらみ顔わの松風そ吹く

月前鹿　　天山生

澄昇る月見んとてや高砂のをのへに高くさをしかのなく